

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

D

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 答案の文章が最後まで完結していないもの。

d 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

e 字数指定のある設問で、制限字数の半分に満たない場合は「字数不足」と記し、全体×として、0点とします。この原則と異なる採点をする場合は、採点基準で指示します。

□ (評論) 採点基準 (60点)

問一 各1点(計5点)

- (1) 鍛練 (「鍛錬」も可) (2) 盤石 (「磐石」も可)
(3) 奨励 (4) 浄化 (5) 逸脱

※解答通り

問二 10点 (模範解答例)

A ○5点

実在としての自己は、

B ○5点

実在の自己が設定した到達すべき目標としての自己。(34字)

※A・Bに関して部分採点

A 「実在としての自己」(5点)

※ 「二重化した自己」のうちの、実在性を持つ自己の指摘。

○ 「実在のままな自己」も可。

○ 「実際に生を営む自己」も可。

△ 「自己」のみでは、実在性の説明が不十分なので ▲2点減点で△3点。

B 「実在の自己が設定した到達すべき目標としての自己」(5点)

※ 「二重化した自己」のうちの、目標として設定された自己の指摘。

○ 「実在の自己にまなざされる自己」も可。

○ 「それ(≡実在の自己)にまなざされる自己」も可。

△ 「自己が設定した目標としての自己」は、はじめの「自己」の実在性が説明されていないので ▲2点減点で△3点。

× 「それ(≡実在の自己)にまなざしを向けて管理する自己」は、「実在の自己」が二重にあることになるので×0点。

A ○3点

自己点検の際に、

B ○4点

自己が過ちを冒したかどうかを確認したり、

C ○4点

過ちを冒した時にそれを浄化しようとしたりする

D ○3点

自己。(53字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「自己点検の際に」(3点)

※「判事」の役割の前提を説明。

○「自己の行動を振り返り」も可。

B 「自己が過ちを冒したかどうかを確認したり」(4点)

※自己の行動の可否判断を説明。

○「自己が正しい行いをしたか」も可。

△「自己が過ちを冒さなかったか判決を下したり」は、「判決を下す」の部分が比喩のままなので▲2点減点で△2点。

C 「過ちを冒した時にそれを浄化しようとしたりする」(4点)

※可否判断後の「浄化」についての説明。

D 「自己」(3点)

※「判事」は自分自身であることの説明。

問四 16点 (模範解答例)

A ○4点

人間一般の生に基礎を置いた中で、

B ○4点

自己が信じる真理を体現したかどうかを点検し、

C ○4点

それが体現できなかった場合、自己と真理とを一致させようとする

D ○4点

実践的な関係。(75字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「人間一般の生に基礎を置いた中で」(4点)

※「自己の真理」が「一般的な命題に基礎を置いている」ことの説明。

B 「自己が信じる真理を体現したかどうかを点検し」(4点)

※Aの観点で「自己点検をすること」の説明。

○「行為の遂行で自己と真理は一体化したかを点検し」も可。

○「行為が真理そのものになったかを点検し」も可。

C 「それが体現できなかった場合、自己と真理とを一致させようとする」(4点)

※Bの観点の結果、さらに「自己と真理の一致」を試みることの説明。

D 「実践的な関係」(4点)

※「自己と真理」の関係性の説明。

問五 15点 (模範解答例)

A ○3点

自己が信じる真理と

B ○3点

実在する自己のあり方を

C ○3点

一致させようとして点検が

D ○3点

繰り返され、

E ○3点

自己は常に変容し続けるということ。(55字)

※A・B・C・D・Eに関して部分採点

A 「自己が信じる真理と」(3点)

※傍線部「この実践」の言い換え。

B 「実在する自己のあり方を」(3点)

※傍線部「この実践」の言い換え。

C 「一致させようとして点検が」(3点)

※傍線部「この実践」の言い換え。

D 「繰り返され」(3点)

※傍線部「反復を伴う」の言い換え。

○「何度も行われ」も可。

E 「自己は常に変容し続けるということ」(3点)

※問いの条件「自己のあり方」の説明。

□ (小説) 採点基準 (60点)

問一 各2点(計6点)

- (1) ・怒り出す
- ・感情を抑えきれなくなる
- (2) ・うわべだけを取り繕って
- ・見た目を取り繕って
- (3) ・そっけなく
- ・つれなく
- ・冷淡に

※基本的には解答通りだが、(1)について、次の答案は減点する。

(1) *単に「怒る」は▲1点減点で△1点。

*「突然」など「かんしゃくを起こす」以外の表現が含まれるものは▲1点減点で△1点。

問二 10点 (模範解答例)

A ○3点

最上の楽しみにしていた

B ○3点

修学旅行に行けなくなるかもしれないということ

C ○4点

腹立たしく感じたから。(46字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「最上の楽しみにしていた」(3点)

※修学旅行への期待の大きさを説明。

○ 「心待ちにしていた」も可。

△ 「魅力的である」は、程度の説明が不足しているので▲2点減点で△1点。

B 「修学旅行に行けなくなるかもしれないということ」(3点)

※修学旅行に行けなくなる可能性についての指摘。

C 「腹立たしく感じたから」(4点)

※ 「茶碗を突き出した」ことの心情を説明。

○ 「怒りを覚えて」「いらだちを感じ」「機嫌を損ね」なども可。

A ○3点

母の容体が悪いことと死の可能性を

B ○3点

結びつけられず、

C ○4点

自分の楽しみを奪われたことが原因で、

D ○4点

父の部屋の皿を割ってしまった失敗のみに

E ○4点

心を奪われていたから。(72字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「母の容体が悪いことと死の可能性を」(3点)

※父の部屋に入る原因の説明。

B 「結びつけられず」(3点)

※父の部屋に入る原因の説明。

C 「自分の楽しみを奪われたことが原因で」(4点)

※父の部屋に入る原因の説明。

D 「父の部屋の皿を割ってしまった失敗のみに」(4点)

※父の部屋での失敗の説明。

E 「心を奪われていたから」(4点)

※その際の心情説明。

問四 16点 (模範解答例)

A ○3点

母の死や姉の結婚と離別が続く中、

B ○3点

それを埋め合わせるかのように、

C ○3点

自分の知らないところで

D ○3点

父と桂さんの結婚話が進められていたことを

E ○4点

不満に思う心情。(70字)

※A・B・C・Dに関して部分採点

A 「母の死や姉の結婚と離別が続く中」(3点)

※Bの観点の前提の説明。

B 「それを埋め合わせるかのように」(3点)

※Dの観点とAの観点の関係性の説明。

C 「自分の知らないところで」(3点)

※父の再婚を知らなかったことの説明。

D 「父と桂さんの結婚話が進められていたことを」(3点)

※父の再婚についての説明。

E 「不満に思う心情」(4点)

※心情そのものの説明。

問五 10点 (模範解答例)

A ○3点

反発していた父と桂さんの結婚という

B ○3点

心のつかえが解消され、

C ○4点

すっきりとした心情。(38字)

※A・B・Cに関して部分採点

A 「反発していた父と桂さんの結婚という」(3点)

※Bの観点の「心のつかえ」の内容の説明。

B 「心のつかえが解消され」(3点)

※「胸のすくような」の意味の説明。

C 「すっきりとした心情」(4点)

※心情そのもの説明。

三 古文『都のつと』

問(一) 傍線部(1)の語句の意味を記せ。 【3点】

〔傍線部〕 A1ことわりにぞB1思ひやらC1れし。

〔解答例〕 A1もつともなことだとC1自然とB1思いが馳せ(C)られた。

A【1点】 ことわりにぞ ↓ もつともなことだと

※「当然だと・道理が通っているように」などでもよい。

B【1点】 思ひやら ↓ 思いが馳せ

※Cの自発の意がない場合は「思いを馳せる」でもよい。

ただし、Cの自発の意がある場合は「思いを馳せられた」は×。

※「想像する」でもよい。

※「思う・感ずる・考える」は×。

C【1点】 れし。 ↓ 自然と くられた。

※Bが×の場合は得点できない。

ただし、「思いを馳せる・思う・感ずる・考える」で×の場合は得点できる。

※自発(くされる)と過去(くた)の両方の訳がなくてはならない。

問(二) 傍線部(2)の語句の意味を記せ。 【3点】

〔傍線部〕 A1宮城野の萩のB2名に立つ

〔解答例〕 A1宮城野の萩でB2有名な

A【1点】 宮城野の萩の ↓ 城野の萩で

※Bが×の場合は得点できない。

※Bの「有名・名所」が「宮城野の萩」によるものとわかればよい。

※「宮城野」か「萩」のいずれかが欠けている場合は×。

B【2点】 名に立つ ↓ 有名な

※「名が知れた・評判の・名所である」などでもよい。

※「有名だ」のように連体修飾のかたちになっていない場合は【1点】。

問(一) 傍線部(3)の語句の意味を記せ。【3点】

傍線部 A 1いとB 2心す「し」

解答例 A 1たいそうB 2もの寂しい。

A【1点】 いと ↓ たいそう

※「とても・非常に・たいへん・実に」などでもよい。

B【2点】 心す「し」 ↓ もの寂しい。

※「寂しい」でもよい。

※「素晴らしい・趣がある・風情がある」などは【1点】。

※「気味が悪い・恐ろしい・ぞっとする」などは×。

問(二) 傍線の箇所(A)とはどのようなことを言っているのか。五十字以内で説明せよ。【8点】

傍線部「 旅の空にははかなくなりなば、夜半の煙もなほ故郷の方にや摩かまし

解答例「 A 3 誰でも旅先で死んでしまったら、 B 3 故郷を思うあまり、 C 2 火葬の煙が故郷の方へなびくのではないか、ということ。」

A【3点】 誰でも旅先で死んでしまったら、

※Cが0点の場合は得点できない。

※「誰でも」の意がない場合は【2点】。

B【3点】 故郷を思うあまり、

※Cが0点の場合は得点できない。

※「望郷のために」の意があればよい。

C【2点】 火葬の煙が故郷の方へなびくのではないか、ということ。

※「墓の煙」のように「火葬」の意が明らかでないが、「死」に関する「煙」とわかる場合は【1点】。

※「死」に関する「煙」とわからない場合は×。

※「なびく」は「立つ」などでもよい。

※「なびくのではないか」は「なびく・なびくだろう・なびいてしまう」などでもよい。

問(三) 傍線の箇所(イ)の歌を解釈せよ。【7点】

「傍線部」 A1故郷はB1げにC1いかなれば(D1) E1夢となる後さへF1なほもG1忘れざるらん

「解答例」 A1故郷はB1本当にC1どういいうわけで、D1その地を離れてE1夢に見るようになった後までもF1やはりG1忘れられないのだからうか。

A【1点】 故郷は ↓ 故郷は

※Gが×の場合は得点できない。

B【1点】 げに ↓ 本当に

※「まじとに・実際・まったく」でもよい。

C【1点】 いかなれば ↓ どういいうわけで、

※「どうして・なぜ」の意があればよい。

D【1点】 (補い) ↓ その地を離れて

※「故郷を離れて」、もしくは、「旅に出て」の意の表現でもよい。

E【1点】 夢となる後さへ ↓ 夢に見るようになった後までも

※「夢に見る」は「夢となる・夢になる」では×。

※「ようになった」は「・ようになる・ことになる・ことになった」でもよい。これに相当する表現がない「夢に見た後まで」などは×。

※「までも」は「も・でも・でさえ・でさえも」でもよい。

F【1点】 なほも ↓ やはり

※「なお・それでもなお・なおも・依然として」などでもよい。

G【1点】 忘れざるらん ↓ 忘れられないのだからうか。

※「忘れないのだからう・忘れられないのだからう・忘れることがないのだからう」など、「忘れない・忘れられない」「+」推量」になっていればよい。

※「忘れないなあ・忘れない・忘れなかった」などは×。

※「か」はなくてもよい。

問(四) 傍線の箇所(ウ)とあるが、「本荒の萩」だけでなく「本荒の桜」も和歌に詠まれている事実から筆者は「本荒」をどのようにとらえていたのか、

本文の内容に即して六十字以内で説明せよ。 【8点】

〔傍線部〕 荒の桜なども詠みて待ればと思ひ給へし

〔解答例〕 A1春にB1焼き畑をした時にC1焼け残った、D1去年のE1古い枝に咲いている花で、

F2枝ぶりが普通のものより固く、G1まばらであるようなもの。

※「本荒は」という主語の有無は不問。ただし、別の主語になっている場合や、後半への文意のつながりが悪い場合などは適宜減点する。

A【1点】 春に

※BもCもXの場合は得点できない。

B【1点】 焼き畑をした時に

※CがXの場合は得点できない。

※「焼き畑」の意がなくてはならない。

C【1点】 焼け残った、

※Bができている場合は「残った」でもよい。Bができていない場合は「焼け残った」でなくてはならない。

※「花・枝・もの」などを形容しいなくてはならない。

D【1点】 去年の

※EがXの場合は得点できない。

※「前年の・去年の」でもよい。

E【1点】 古い枝に咲いている花で、

※「古い枝」の意があればよい。

F【2点】 枝ぶりが普通のものより固く、

※「枝ぶり」は「枝・枝の様子」でもよい。

※「固く」は「強く」ではX。

※「普通より」の意がない場合は【1点】。

※「花・枝・もの」などを形容しいなくてはならない。

G【1点】 (枝ぶりが)まばらであるようなもの。

※「枝が・生え方が」などの主語が明らかでない場合はX。

※「花・枝・もの」などを形容しいなくてはならない。

問(五) 傍線の箇所(エ)を口語訳せよ。 【8点】

〔傍線部〕 A1 神体はB2 やがてC2 塩竈にてわたらせ給ふ。 D1 御前にE1 通夜しF1 侍りぬ。

〔解答例〕 A1 鹽竈神社の御神体はB2 その名のとおりC2 塩焼きの竈でいらっしやる。 D1 その御

神前でE1 一晩中祈願いたしF1 ました。

※「鹽」と「塩」、「竈」と「釜」は、どちらでもよい」とにする。「鹽」と「竈」の字は大きく書き間違えていなければよい」とにする。

A【1点】 神体は ↓ 鹽竈神社の御神体は

※Cが0点の場合は得点できない。

※「鹽竈神社の」はなくてもよい。「御神体」は「神体」でもよい。

B【2点】 やがて ↓ その名のとおり

※「その名のまま・鹽竈という名のとおり」でもよい。

C【2点】 塩竈にてわたらせ給ふ。 ↓ 塩焼きの竈でいらっしやる。

※「塩焼きの竈」は「塩竈(鹽竈)」でもよい。

※「塩竈である」の意があれば【1点】。

※右の意がある上で、尊敬表現になっていれば【2点】。

D【1点】 御前に ↓ その御神前で

※「神前で」の意があれば、「その」や「御」はなくてもよい。

※「御前で・その前で」など「神」の字がない場合は×。

E【1点】 通夜し ↓ 一晩中祈願いたし

※「一晩中(夜通し・夜を徹して)」の意と「祈る(神前に仕える・神事を行う)」の意の両方がなくてはならない。

※「通夜」のままは×。

F【1点】 侍りぬ。 ↓ ました。

※Eが×の場合は得点できない。

※丁寧(〜です・〜ます・〜ございます)の意と、完了(〜した)の意の両方がなくてはならない。

四 漢文（40点）

問1 （各2点×2＝計4点）

(1) なんじの 2点

※歴史的仮名づかい「なんぢの」でも可。

※「なんぢ」「なんじ」（「の」の抜け）は1点

(2) これより 2点

問2 （各6点×2＝計12点）

※「漢字かな混じり」「カタカナ書き」「ひらがなカタカナ混じり」 ↓ × (0点)

※ 答案が未完成の場合は ↓ × (0点)

※ 書き下し文ではなく口語訳を答えているもの ↓ × (0点)

※ 現代仮名づかいでも、歴史的仮名づかいでも、どちらでもかまいません。

(a)

A	2点	かれますに	／	B	2点	きたりてまみえ	／	C	2点	んとするなり	(と)
---	----	-------	---	---	----	---------	---	---	----	--------	-----

次のように、3分割して採点する。

A 「かれますに」 2点
B 「きたりてまみえ」 2点
C 「んとするなり」 2点

(A) は解答通り。例外なし。

(B) は「らいけんせ」でも可。

(C) は「んとす」でも可。また「と」については不問。

※(A) ↓ (B) ↓ (C) の順番で並んでいることが加点の条件。

問3 (6点)

- ◎ 全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ ×0点
- ◎ 「…意図」という基本路線に沿っていない場合 ↓ 1点減点

A 2点

薛瑄の所在をたずねることで、 /

B 2点

彼がまだ自分のもとに挨拶に来ていないと

C 2点

/ 三楊を責める意図。

次のように、3分割して採点する。

A 「薛瑄の所在をたずねることで」	2点
B 「彼がまだ自分のもとに挨拶に来ていないと」	2点
C 「三楊を責める意図」	2点

【各加点要素の加点の条件】

(A) 「薛瑄の所在をたずねることで」 …………… 2点

※ 「薛瑄の所在をたずねた」に触れていること。説明の前提として、まず「安くにか在る」を正しく解釈できているかを確かめる。

(B) 「彼がまだ自分のもとに挨拶に来ていないと」 …………… 2点

※言葉上は「薛瑄はどこにいるのか」だが、実際は「薛瑄が挨拶もしない」「薛瑄が姿を現さない」「薛瑄がお礼に来ない」と王振が暗に示していると説明していること。

(C) 「三楊を責める意図。」 …………… 2点

※はつきりと「薛瑄その人ではなく」三楊を責める意図」と明示していること。三楊が薛瑄を推薦し、王振はそれに従って彼を登用した。だから、無礼なことに薛瑄が挨拶に来ないと、王振は、薛瑄本人ではなく、彼を推薦した三楊を責めた。

※ 余計な記述があった場合

▽本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 ↓ 不問

▽本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 ↓ 各1点減点

▽余計な記述のせいで答案全体が意味不明なった場合 ↓ 全体0点

(見逃してもいい) 不問 / ひどくはないが、見逃せるほどでもない(マイナス1点 / ひどすぎる) 0点、という感じです)

問4 (6点)

- ※ 口語訳ではなく書き下し文を答えているもの ↓ × (0点)
- ※ 全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ × (0点)

A 2点
三楊は / 李賢が薛瑄と / 厚く交誼を結んでいると知り、
B 2点
C 2点

※ 次のように、3分割して採点する。なお「×」は「その部分は加点数なし」の意。

A 「三楊は」	2点
B 「李賢が薛瑄と」	2点
C 「厚く交誼を結んでいると知り」	2点

【各加要素の加点の条件】

- (A) 「三楊は」……………2点
 - ※ 「三楊は」という主語に正しく触れていること。
- (B) 「李賢が薛瑄と」……………2点
 - ※ 「李賢が薛瑄と」と、「与」を適切に解釈できていること。
 - ▽ 「李賢と薛瑄が」は「李賢の」の「の」を誤訳しているので ↓ × □
- (C) 「厚く交誼を結んでいると知り」……………2点
 - ※ 「厚い交誼・友情・関係・交際……が李賢と薛瑄の間にあった」と、「厚」を適切に解釈できていること。「仲が良かった」程度でも可。
 - ※ 「……と知る」も可。

問5 (6点×2＝12点)

- ◎全体的に意味不明な答案・模範解答から遠い答案 ↓ × (0点)
◎「...から」「...ので」という基本路線に沿っていない場合 ↓ 1点減点

① 朝廷から官職を与えられながら王振個人に感謝するのは

A 2点

B 3点
／ 道理に反するという薛瑄の態度に

C 1点
／ 感服したから。

※ 次のように、3分割して採点する。なお「×」は「その部分は加点なし」の意。

A 「朝廷から官職を〜感謝するのは」	2点
B 「道理に反するという薛瑄の態度」	3点
C 「感服したから」	1点

【各加点要素の加点の条件】

(A) 「朝廷から官職を〜感謝するのは」 2点

※薛瑄の言葉「爵を公朝に拝して、恩を私室に謝するは」の意味を本文の内容に即して正しく理解していること。「(王振の口利きがあったとはいえ) 朝廷から官職へ」大理寺の副長官)を与えられながら、(朝廷ではなく)王振個人に感謝する」のはまちがいだ、という基本を踏まえていれればよい。

(B) 「道理に反するという薛瑄の態度」 3点

※(A)を「為さざるなり」と薛瑄が言う理由を、「道理に反するから」「公私混同だから」「筋違いだから」などと明示できていること。

(C) 「感服したから」 1点

※以上の薛瑄の考えに「感服した」「納得した」「(その考えを)受け入れた」などと、王振がプラス評価を下した点を示していること。

A 3点

② 会議の際、群臣は我先にと王振に拝礼したのに、薛瑄だけは頭を下げず

B 3点

／ 権力者に媚びる様子を見せなかったから。

※ 次のように、2分割して採点する。なお「×」は「その部分は加点数なし」の意。

A 「会議の際、薛瑄だけは頭を下げず」……………3点

B 「権力者に媚びる様子を見せなかったから」……………3点

【各加要素の加点数の条件】

(A) 「会議の際、薛瑄だけは頭を下げず」……………3点

※会議に際して、大臣たちはみな争うように王振に拝礼したのに、薛瑄だけは頭を下げるようとはしなかった、という状況を正しく表現できていること。

▽要素が足りない場合は1点ずつ減点してください。例えば、「会議の際、薛瑄は頭を下げなかった」だけなら、「王振に」も抜けているし、「他の大臣は頭を下げた」も抜けているので、2点減点です。

(B) 「権力者に媚びる様子を見せなかったから」……………3点

※(A)を、「権力者に媚びない態度」「相手が王振であつても媚びたりしない様子」「相手が権力者でもおもねらない(へつらわらない)強い心」のように解釈できていること。